

J P C O A R

オープンアクセスリポジトリ推進協会

オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)活動方針 (2022-2026年)

2022年3月16日

2021年度総会決定

■はじめに [展望]

インターネットの発展による学術情報流通環境は、デジタルトランスフォーメーション(DX)の名のもとに本格的な革新のフェーズに入った。コンテンツのデジタル化、オンライン交流ツールの普及などにより、学術コミュニケーションは限りなくリアルタイムに近づくことになり、学術情報をめぐる環境のDXこそが、オープンサイエンスなどの新たな領域を切り拓いていくことになる。将来的には、世界中の研究者が、アバターをまとめてVR世界で一堂に会し、共同実験や議論を行うことが当たり前になるかもしれない。私たちは、新しい時代の研究環境に不可欠の基盤として、オープンアクセスリポジトリに基づく、学術情報の自由でオープンな共有ネットワークを確立し、加速する学術研究を支えていかねばならない。

■オープンアクセスリポジトリの役割 [ビジョン]

機関リポジトリは、学術雑誌掲載論文のセルフアーカイブの受け皿として生まれ、オンライン紀要の出版ツール、博士学位論文の制度的公表メディアとしても成長してきた。オープンサイエンスの広がりとともに、研究データの管理・利活用のための学術情報環境の整備が進むなかで、機関リポジトリには、さらに新たな役割を果たすことが求められている。

機関リポジトリを含むオープンアクセスリポジトリは、学術研究機関の情報発信をにぎう統合的ソリューションの中核概念である。そのネットワークは、教育や社会貢献なども含んだ学術活動を支え、同時に急速に進展するグローバルなリポジトリネットワークにあって我が国のプレゼンスを高める原動力となるべきだろう。

■オープンアクセスリポジトリ推進協会の活動方針

私たちオープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)は、オープンアクセスを推進することによって教育研究などの学術成果をオープンにしていくことを使命として、「リポジトリを通じた知の発信

システムの構築」(会則第2条)を推進する組織であり、3年間を計画期間とした中期戦略に基づいて活動してきた。2022年から2026年の5年間においては、3年間の成果をふまえて、活動の方針をさだめることとし、以下の3点を重点活動項目として、多様な会員機関の協働により、会員機関のコンテンツの充実支援、システムの整備・運用や我が国におけるオープンアクセス及びオープンサイエンスの推進をはかっていく。

■重点活動項目(2022-2026年)[ミッション]

1. 会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成 <コミュニティ>

協会は、各会員機関が、個々の特性や置かれている状況に応じて細やかな情報交換を行い、その構成員に業務上必要な研鑽を積ませ、人材を育成していくことができるよう、その機会を創出する。また、協会は、オープンサイエンスに向けた先進的な取組事例(海外事例、類縁コミュニティや会員機関自身によるものを含む)の情報収集・共有化をすすめ、各会員機関が応用・活用できるようにする。また、国内外の関連団体との連携・協力をはかることにより、コミュニティを活性化する。

2. 会員機関が公開するコンテンツの多様化と利活用 <コンテンツ>

協会は、会員機関のリポジトリが擁する学术论文や研究データをはじめとする多様なコンテンツについて、総体として、また、種類ごとに、収集・管理・保存のノウハウを共有する。また、各種識別子を含むメタデータの標準化やFAIR原則への対応、流通促進を通じて、会員機関構成員の学術成果の普及・利活用を促進することにより、新たな成果につながるようなエコシステムの形成につとめる。

3. リポジトリシステムの維持・発展の促進 <システム>

協会は、主体的な運営者としての会員機関とともに、JAIRO Cloudを国立情報学研究所と共同運営する。また、会員機関の機関リポジトリがNII Research Data Cloudとの円滑な連携を実現できるよう、国立情報学研究所との連携・協力を進めるとともに、会員機関の声を集約して提言を行う。

■活動計画

JPCOARは、活動方針に沿って、重点活動項目を含む「リポジトリを通じた知の発信システムの構築」に資する活動計画を策定する。活動計画は、つねにフィードバックを行い、必要に応じて随時見直していく。作業部会及びタスクフォースは活動計画に基づいて事業、調査、研修などを実施し、総会において進捗状況を報告するものとする。